

元気っ子通信

平成 26 年 9 月 10 日

夏休みが終わって

猛暑で始まり、後半は雨で日本中が被害を受けた夏でした。幸いこのあたりは水害はありませんでしたが、災害地の方達は大変なご苦労がいまだに続いています。最近の傾向として予測できない天気、家族でいざという時の備えの話し合いも必要だなと感じております。

さて、夏休みの姿から感じたこととお話します。

午前中の学習時間では各学年は宿題とともに一学期のおさらいをしています。その様子を見て思ったのですが、算数の計算ができて、文章問題になると文章をしっかり読んで何を問うているかを自分で考えもせず、「これどうすんの?」とすぐに人に聞いています。これは国語の力が不足しているからで、国語も算数もその他の科目も全て関連性があります。二学期はこんなことを頭において子どもの勉強をみてやってほしいと思います。

勉強をしている子におかまいなしに騒いだり、休養の時間に静かにできないで何度も注意をされる子もいました。人に迷惑をかけない気づかいができていい年齢です。我慢することをもっと身につけてほしいです。

川遊びへの道は本当にたいへんでした。じりじり、かっかっとして照りつける中を30分位にぎやかに歩きます。熱中症が本当に心配でした。流れる川に身をまかせて泳ぐ子、小魚をつかまえようとゴーグルで川をのぞきこむ子、きれいな石探しをする子、大きな石をかかえてダム作りをがんばる子など、たくさんの遊びの中で仲間と関り、歓声をあげているようすは心の開放感さえ感じます。

鈴鹿山脈の山々を背景にこんな美しい自然の中で子ども時代をすごしている子ども達をみながら、「ぜったい、いい子に育つ、育ててほしい」と願わずにおれません。

以 上

